

環境報告書2012 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成23年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 (○)内は 実績値														
教育	1.持続可能な社会の実現に向けて、地球規模で環境を学んで地域に立脚し実行できるよう、鋭い観察力、強靱な思考力、的確な判断力を養うための環境教育プログラムを開発し、先進的な環境知識と行動力、環境マインドを兼ね備えた学生を社会に輩出する。	「実践・現場重視型の環境教育」の充実	<p>評価:各学部は、『「実践・現場重視型の環境教育」の充実』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、学部として掲げた全ての部局で、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。 医学部に関しては、全学目標として共通教育を通じ取り組みを実施しました。</p>															
			<table border="1"> <tr> <td>人文学部 教育学部</td> <td>学部の環境教育科目の実施数を24年度拡大に向け検討をする(検討回数)</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>工学部</td> <td>学部の「環境資格支援教育プログラム」登録科目数を24年度拡大に向け検討する(検討回数)</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">根拠 生物資源学部</td> <td>学部の環境教育科目の実施数の拡大を24年度に向け呼びかけた回数</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>学生に対して講義・実習の発展型として体験の場を提供する</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学 研究科</td> <td>研究科として、学生への講義(特に研究者倫理持論、産業人基礎持論等)の中に環境教育を取り入れられないかを検討する。</td> <td>(2回)</td> </tr> </table>	人文学部 教育学部	学部の環境教育科目の実施数を24年度拡大に向け検討をする(検討回数)	(2回)	工学部	学部の「環境資格支援教育プログラム」登録科目数を24年度拡大に向け検討する(検討回数)	(1回)	根拠 生物資源学部	学部の環境教育科目の実施数の拡大を24年度に向け呼びかけた回数	(1回)	学生に対して講義・実習の発展型として体験の場を提供する	(2回)	地域イノベーション学 研究科	研究科として、学生への講義(特に研究者倫理持論、産業人基礎持論等)の中に環境教育を取り入れられないかを検討する。	(2回)	
			人文学部 教育学部	学部の環境教育科目の実施数を24年度拡大に向け検討をする(検討回数)	(2回)													
			工学部	学部の「環境資格支援教育プログラム」登録科目数を24年度拡大に向け検討する(検討回数)	(1回)													
			根拠 生物資源学部	学部の環境教育科目の実施数の拡大を24年度に向け呼びかけた回数	(1回)													
		学生に対して講義・実習の発展型として体験の場を提供する		(2回)														
		地域イノベーション学 研究科	研究科として、学生への講義(特に研究者倫理持論、産業人基礎持論等)の中に環境教育を取り入れられないかを検討する。	(2回)														
		学際的環境教育システムの構築と運用	<p>評価:各学部は、『学際的環境教育システムの構築と運用』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、学部として掲げた全ての部局で、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。 医学部に関しては、全学目標として共通教育を通じ取り組みを実施しました。</p>															
			<table border="1"> <tr> <td>人文学部</td> <td>学部の環境教育科目の履修者数の24年度拡大に向け検討をする(検討回数)</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>教育学部 工学部</td> <td>学部における「環境資格支援教育プログラム」登録科目を実施する</td> <td>(10回)</td> </tr> <tr> <td>生物資源学部</td> <td>留学生教育に環境マインドの育成内容の導入を推進する。</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学 研究科</td> <td>研究科として環境教育を取り入れた専門科目と研究内容を検討する</td> <td>(3回)</td> </tr> </table>	人文学部	学部の環境教育科目の履修者数の24年度拡大に向け検討をする(検討回数)	(1回)	教育学部 工学部	学部における「環境資格支援教育プログラム」登録科目を実施する	(10回)	生物資源学部	留学生教育に環境マインドの育成内容の導入を推進する。	(1回)	地域イノベーション学 研究科	研究科として環境教育を取り入れた専門科目と研究内容を検討する	(3回)			
			人文学部	学部の環境教育科目の履修者数の24年度拡大に向け検討をする(検討回数)	(1回)													
教育学部 工学部	学部における「環境資格支援教育プログラム」登録科目を実施する		(10回)															
生物資源学部	留学生教育に環境マインドの育成内容の導入を推進する。	(1回)																
地域イノベーション学 研究科	研究科として環境教育を取り入れた専門科目と研究内容を検討する	(3回)																
学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携	<p>評価:各学部は、『学内外の環境教育プロジェクトへの支援と連携』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施回数を設定しています。 実績は、学部として掲げた全ての部局で、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。 医学部に関しては、全学目標として共通教育を通じ取り組みを実施しました。</p>																	
	<table border="1"> <tr> <td>人文学部 教育学部</td> <td>環境管理推進センター員から環境教育プロジェクトの提案及び報告を受け学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)</td> <td>(10回)</td> </tr> <tr> <td>工学部</td> <td>工学部環境管理推進センター員から、全学委員会報告として教授会で報告して学部内で共有し、支援と連携を促進する。</td> <td>(12回)</td> </tr> <tr> <td>生物資源学部</td> <td>環境に関わるインターシップ充実を呼びかける</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学 研究科</td> <td>三重大学環境ISO及び環境教育について、研究科として環境教育プロジェクトの提案事項を検討する(検討回数)</td> <td>(2回)</td> </tr> </table>	人文学部 教育学部	環境管理推進センター員から環境教育プロジェクトの提案及び報告を受け学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)	(10回)	工学部	工学部環境管理推進センター員から、全学委員会報告として教授会で報告して学部内で共有し、支援と連携を促進する。	(12回)	生物資源学部	環境に関わるインターシップ充実を呼びかける	(1回)	地域イノベーション学 研究科	三重大学環境ISO及び環境教育について、研究科として環境教育プロジェクトの提案事項を検討する(検討回数)	(2回)					
	人文学部 教育学部	環境管理推進センター員から環境教育プロジェクトの提案及び報告を受け学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)	(10回)															
	工学部	工学部環境管理推進センター員から、全学委員会報告として教授会で報告して学部内で共有し、支援と連携を促進する。	(12回)															
生物資源学部	環境に関わるインターシップ充実を呼びかける	(1回)																
地域イノベーション学 研究科	三重大学環境ISO及び環境教育について、研究科として環境教育プロジェクトの提案事項を検討する(検討回数)	(2回)																
重点課題(エネルギー転換/地球温暖化対策/二酸化炭素の固定・吸収源)の環境研究実施を奨励する	カーボンフリー大学構築の実施に向けた環境関連研究の調査(学内外リサーチ)	<p>評価:各学部は、『カーボンフリー大学構築の実施に向けた環境関連研究の調査』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。 実績は、学部として掲げた全ての部局で、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。</p>																
		<table border="1"> <tr> <td>人文学部</td> <td>学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(教授会・学科長会議等で報告した回数)</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">根拠 工学部</td> <td>工学部教員による環境研究課題並びに特に二酸化炭素排出量低減に関する研究を調査し、学部内で共有する。</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>本研究科教員に対して地球温暖化対策に関する研究アンケートを行う</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学 研究科</td> <td>研究科内の教員にカーボンフリー大学構築に向けての環境関連研究の奨励を勧める</td> <td>(4回)</td> </tr> </table>	人文学部	学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(教授会・学科長会議等で報告した回数)	(1回)	教育学部	学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)	(1回)	根拠 工学部	工学部教員による環境研究課題並びに特に二酸化炭素排出量低減に関する研究を調査し、学部内で共有する。	(1回)	本研究科教員に対して地球温暖化対策に関する研究アンケートを行う	(1回)	地域イノベーション学 研究科	研究科内の教員にカーボンフリー大学構築に向けての環境関連研究の奨励を勧める	(4回)		
		人文学部	学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(教授会・学科長会議等で報告した回数)	(1回)														
		教育学部	学部・学科教員による環境研究成果を学部内で共有する(メール等活用し報告した回数)	(1回)														
		根拠 工学部	工学部教員による環境研究課題並びに特に二酸化炭素排出量低減に関する研究を調査し、学部内で共有する。	(1回)														
本研究科教員に対して地球温暖化対策に関する研究アンケートを行う	(1回)																	
地域イノベーション学 研究科	研究科内の教員にカーボンフリー大学構築に向けての環境関連研究の奨励を勧める	(4回)																

環境報告書2012 環境マネジメントシステムの概要 資料

平成23年度 部局独自の取り組み

環境目標の達成度評価基準



達成率100%以上



→達成率80%以上



→達成率80%未満

方針	目的	目標	具体的な取り組み	達成度 ( )内は 実績値																					
社会貢献	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立	<p>評価:各部局(学部を含む)は、『三重大学独自の環境主軸のUSR規範の検討と確立』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。環境報告書2011(2011年9月発行)及び環境報告書2012(2012年9月発行)の作成のため、年度の活動成果をまとめて報告書作成に生かされています。</p>																						
			<table border="1"> <tr> <td>人文学部 教育学部</td> <td>環境報告書に掲載する環境教育・環境研究の23年度成果をまとめ、部局担当の環境管理推進センター員に報告した回数</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>工学部</td> <td>工学部で取り組まれている環境研究からいくつかを抽出し、環境報告書作成に情報提供する。</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>生物資源学部</td> <td>FSCを利用した環境啓蒙活動を行う</td> <td>(3回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学 研究科</td> <td>研究科内でUSR規範の検討を行う</td> <td>(8回)</td> </tr> <tr> <td>学務部</td> <td>物品購入の際には「グリーン購入」を心がける。購入時に少しでも環境のことを考える契機にする</td> <td>(10回)</td> </tr> <tr> <td>施設部</td> <td>マイ箸使用の実施</td> <td>(10回)</td> </tr> </table>	人文学部 教育学部	環境報告書に掲載する環境教育・環境研究の23年度成果をまとめ、部局担当の環境管理推進センター員に報告した回数	(2回)	工学部	工学部で取り組まれている環境研究からいくつかを抽出し、環境報告書作成に情報提供する。	(1回)	生物資源学部	FSCを利用した環境啓蒙活動を行う	(3回)	地域イノベーション学 研究科	研究科内でUSR規範の検討を行う	(8回)	学務部	物品購入の際には「グリーン購入」を心がける。購入時に少しでも環境のことを考える契機にする	(10回)	施設部	マイ箸使用の実施	(10回)				
			人文学部 教育学部	環境報告書に掲載する環境教育・環境研究の23年度成果をまとめ、部局担当の環境管理推進センター員に報告した回数	(2回)																				
			工学部	工学部で取り組まれている環境研究からいくつかを抽出し、環境報告書作成に情報提供する。	(1回)																				
			生物資源学部	FSCを利用した環境啓蒙活動を行う	(3回)																				
			地域イノベーション学 研究科	研究科内でUSR規範の検討を行う	(8回)																				
			学務部	物品購入の際には「グリーン購入」を心がける。購入時に少しでも環境のことを考える契機にする	(10回)																				
	施設部	マイ箸使用の実施	(10回)																						
	キャンパス及びその周辺地域社会学生とのコミュニケーション	地域社会と連携し、学生のコミュニケーションを養う交流の機会を作る	<p>評価:各部局(各学部と環境ISO学生委員会を含む)は、『地域社会と連携し、学生のコミュニケーションを養う交流の機会を作る』に対する目標への取り組み内容を年度当初に検討し、実施内容を設定しています。実績は、学部として掲げた全ての部局で、目標に対して充足し、年間通じてすべて達成しました。特筆する点として、環境ISO学生委員会が活動として取り組む内容の実績に関しては、地域や地元企業からの高い評価を得ています。</p>																						
			<table border="1"> <tr> <td>人文学部</td> <td>周辺住民と共同で行う海岸清掃活動等への参加を呼びかける</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>教育学部</td> <td>教育学部独自の地域社会との連携事業を実施する</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>工学部</td> <td>学生と教職員を含む環境に関する意見交換会を企画、実施する</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>生物資源学部</td> <td>大学際における展示等を通して地域社会と環境に関わる交流を行う</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>地域イノベーション学 研究科</td> <td>大学際で学生による地域イノベーションと関連づけた環境イベントを開催する</td> <td>(1回)</td> </tr> <tr> <td>学務部</td> <td>「熟講2011in三重大学」と「大学際」を開催し、生き活きと開かれた大学をアピールしつつ、地域との連携を深めていく</td> <td>(2回)</td> </tr> <tr> <td>環境ISO学生委員会</td> <td>地域や地元企業の方々と学生とがコミュニケーションを行う機会を作る、もしくはコミュニケーションの場にする</td> <td>(7回)</td> </tr> </table>	人文学部	周辺住民と共同で行う海岸清掃活動等への参加を呼びかける	(2回)	教育学部	教育学部独自の地域社会との連携事業を実施する	(1回)	工学部	学生と教職員を含む環境に関する意見交換会を企画、実施する	(1回)	生物資源学部	大学際における展示等を通して地域社会と環境に関わる交流を行う	(1回)	地域イノベーション学 研究科	大学際で学生による地域イノベーションと関連づけた環境イベントを開催する	(1回)	学務部	「熟講2011in三重大学」と「大学際」を開催し、生き活きと開かれた大学をアピールしつつ、地域との連携を深めていく	(2回)	環境ISO学生委員会	地域や地元企業の方々と学生とがコミュニケーションを行う機会を作る、もしくはコミュニケーションの場にする	(7回)	
			人文学部	周辺住民と共同で行う海岸清掃活動等への参加を呼びかける	(2回)																				
			教育学部	教育学部独自の地域社会との連携事業を実施する	(1回)																				
			工学部	学生と教職員を含む環境に関する意見交換会を企画、実施する	(1回)																				
			生物資源学部	大学際における展示等を通して地域社会と環境に関わる交流を行う	(1回)																				
地域イノベーション学 研究科			大学際で学生による地域イノベーションと関連づけた環境イベントを開催する	(1回)																					
学務部	「熟講2011in三重大学」と「大学際」を開催し、生き活きと開かれた大学をアピールしつつ、地域との連携を深めていく	(2回)																							
環境ISO学生委員会	地域や地元企業の方々と学生とがコミュニケーションを行う機会を作る、もしくはコミュニケーションの場にする	(7回)																							

※具体的取り組みに対する評価は、環境管理推進センターが平成23年度EMS年間実施計画書の実績からまとめた内容です。